

多摩デポ通信 第37号

特定非営利活動法人 共同保存図書館・多摩

2016年1月27日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

新年にあたって

理事長 座間直壮

「……三〇年書店員をしていると、図書館の書棚を見ていて『懐かしいなあ!』と思う瞬間がある。かつての大ベストセラーで、今は文庫になったり、品切れになった本が並んでいるのを発見した時だ。そんな時、書店と図書館との間の宿命的な『時差』は、書物にとっても実はとても大切なものかもしれない、と思ったりもする:」というのは、『紙の本は、滅びない』の著者である福嶋聡氏の言葉

です。1982年にジュンク堂書店に入社し、神戸、京都、仙台、池袋、大阪などの店を経て、現在は難波店店長をされています。突然の書き出しですが、2月の多摩デポ講座の講師として福嶋さんをお招きすることになりました。前出の他、『希望の書店論』『書店人のこころ』『劇場としての書店』などの著書で、書店からの視点で「紙の本」についていろいろな切り口から語っておられます。今年度最後の講座の講師として、書店から図書館のさまざまな現状をどのように捉えておられるか、また

第25回 多摩デポ講座

『紙の本は、滅びない』

福嶋聡氏（ジュンク堂難波店店長）

2月27日(土) 午後6時30分～8時30分

国分寺労政会館 3階第4会議室

JR中央線国分寺駅・南口 徒歩5分

演題は、講師の著書のタイトルでもあります。これ以上、今回の講座にピッタリの題は考えられません。

書店や図書館から紙の本がなくなり、電子書籍に取って代わられることはあり得ないという講師の確信は何に由来するのでしょうか？書店と図書館との共存は、お互いに切磋琢磨し読書人口を増やしていくこと以外にはあり得ないと思われませんが、講師はどのような構想を抱いているのでしょうか？

「本」のこれからについて、講師からの挑発を受け、あなた自身の解を得ましょう！

※申込不要 ※参加費 500円 ※会員でない方もどなたでも参加できます

書き手と読み手を繋ぐ役割を持つ書店と図書館はそれぞれどのように発展していくことができるのか、図書館の資料保存のことなど、興味深いお話を伺えることと思っております。

会員以外の方も参加できますので、是非お誘い合わせしてお越しく下さい。

さて、多摩デポの昨年の活動の中心は、バーチャルデポ(現物の所蔵は動かさないままのデータ上の共同保存システム)の構築でした。一昨年11月から開始した(株)カーリルとの共同研究が順調に進み、多摩地域でのラスト1冊・2冊の図書検索の機械化に一步近づくことができ、検索精度もかなり高めることが出来ていきます。

先日の打ち合わせ会ではラストワン・ツ一の検索デモを見せてもらいました。検索の速さに目を見張るも

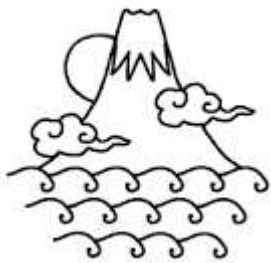
のがあり、参加者一同から驚きの声が上がりました。

(株)カーリルの吉本氏からは、更に改善の余地があるので、どういう方向がいいのか要望を寄せてくださいます。3月にはこの研究の中間報告会を開催し、皆さんに体験してもらいたいと考えています。そして館長協議会の「多摩地域における共同利用図書館検討プロジェクトチーム」とも連絡をとりつつ、今後の資料保存・除籍の作業に活用していただければと願っています。

2016年度は都立多摩図書館の新館が開館する年度です(2017年1月開館予定)。現在の都立多摩図書館と比べ、延べ床面積で約2倍、蔵書収容冊数で約2.8倍の施設が生まれま

広域のかつ総合的情報拠点として資料及び情報を収集・保存することが掲げられています。市町村立図書館に対する第二線図書館としての様々な機能が期待されますが、図書の保存も地域の図書館との連携・協力を図りつつ、共同書庫という視点からの運用を、多摩都民として求めていきたいと考えています。

今年NPPO法人多摩デポが発足して9年目を迎えます。共同保存図書館実現は未だ見えていませんが、(株)カーリルとの共同研究の成果の普及・活用や都立多摩図書館の新館開館を機に大きく前進したいと考えています。皆様のご支援・ご協力をよろしく申し上げます。



多摩の地に、ジュンク堂の福嶋聡氏を迎える!

—事務局員の期待—

養田明子

人の縁とは不思議なもの、そしてタイミングはあるものだとつくづく思うのです。今回の多摩デポ講座は、事務局としては、いつも以上に想いがこもっています。ちょうど去年の今頃、2015年度の事業計画を話し合う中で、「もっと会の存在を広く知ってもらおう必要がある」との共通認識がありました。その方法として今年度の議案書には紙の「本」の役割を正當に評価すること、それを提供する図書館の存在、「本」の保存や活用の必要性をテーマにした講座の開催をうたいました。それは多くの方が参加したいと思える講師をイメージしたものでした。

そしてそのオフアールを快くお引受けいただけただけのが福嶋氏でした。関西からわざわざお越しくださいました。

そしてまた事務局会議。タイトルはほとんど躊躇なく、一昨年1月に刊行されたご著書の題名そのままがいいねとなりました。まさに、私たちが考えていることを体現していて、話していただきたいことにもピッタリです。

まずは自由に語っていただけのことへのワクワク感がありながらも、私が聞いたテーマを並べてみます。福嶋氏は、先のご著書で電子書籍や書店の棚作りなどを論じ、随所で図書館も話題にしています。その観点は「本と人をむすぶ」という書店との共通性だったり、「仕入れて売る」書店と「貯めて貸す」図書館との比較であったり、その内容は図書館と書店が一緒に議論さ

れることが急に増えた今また、とてもタイムリーです。

実は、ジュンク堂は多摩のど真ん中・立川に2月下旬、立川高島屋店が新規開店します。今回の日程はその直後。図書館は営業的マーケティングに基づいて立地・規模・内容を決められる施設ではありません。だからこそ、書店から見た多摩地域の読者像や「なぜ今、立川に出店か」はお聞きしたいところです。

『図書館雑誌』昨年10月号掲載の「社会と時代を映し出す、書店と図書館の書棚」も、もう一步奥まで語っていただきたいです。関連では、偏っていると批判されたジュンク堂渋谷店での「自由と民主主義のための必読書50」フェア中止・再開騒動について、12/2付朝日新聞に実名・顔写真付インタビュー記事があり、興味深く読みました。

書店と図書館は、読者利用者と消費者をめぐる協同したり、競争したりと複雑な関係にあります。それでも補完し合い、共存共栄して、読書環境を豊かにする共通の社会的責務があると私は思います。図書館への苦言や(あれば)期待、あるいは「ここは書店に任せろ」発言も期待します。

この数年で多摩地域の図書館は開館50周年が続きます。現代の図書館を育てたその多摩で生粋のリアル書店員の講演を讀者、図書館員、出版関係者が一堂に会して聞く、ありそうで意外に少ない機会です。質疑も含め、盛り上がる予感があり、楽しみにしています。

(株)カーリルとの 共同研究報告 その5

多摩デポと(株)カーリルとの共同研究は、順調に進んでいます。共同研究の目的は、ある自治体の図書館で除籍候補となった資料が、多摩地域全体では何冊所蔵されているのか、最後の2冊以下ではないのかを容易に確認し、各図書館が共同で資料保存をするシステム作りです。このシステムは、ISBN(国際標準図書番号)が付いた図書に限っては実用に耐えるものが出来上がりつつあります。私たちは次のことを念頭に開発を進めてきました。

- ①各図書館での作業負担が少ない方法を考える。
- ②除籍候補資料が大量にある場合には、オフラインでデータをアップロードして行うことが出来る仕組みを考え



る。③除籍候補資料が少量の場合にはオンラインで一冊ごとに入力し、調査が出来る仕組みを考える。④対象とする資料は各図書館で最後の一冊となっているISBN付き図書とする（それ以外の資料は別途対応を考える）。⑤モデルシステムを作り、多くの関係者に見てもらい、使い勝手の検証を行う。

前号では、②のシステムの精度を検証したことを報告しました。見つかった問題は改良しました。

③の「少量の資料をオンラインで一冊ごとに入力し、調査する仕組みづくり」では、インターネット上の専用サイトの検索画面に調べたい図書のISBNを入力すると、瞬時に、多摩地域で何館、どの館で所蔵しているかを表示してくるシステムが出来上がりました。そこで、このシステムを

説明・発表する会を企画しました。3月21日（月・振替休日）午後12時に国分寺労働会館で中間報告会を開きます。これまでの経過や多摩地域の共同保存の動きを伝え、開発した新検索システムをご紹介します。複数のパソコンを用意し、多くの方に試してもらいたいと思います。

いままでの東京都立図書館の統合検索とはどう違う、どう便利なのか、情報の見せ方、使い勝手はこれで充分なのか、さらに付け加えたほうが便利になる点はないかなど、さまざまなご意見をお聞きしたいと思えます。

ISBNが付与された図書に限られるため、発展途上のシステムですが、現段階でも共同保存の取り組みに負担感なく参加できるツールになっていると思います。ぜひおいで下さい。

多摩デポ&カーリル 共同研究 中間発表会

ここまで進んだ

バーチャル共同保存図書館

～開発中の新システムを体験してみよう～

3月21日(月) 午後1時30分～4時30分

国分寺労政会館 3階 第3会議室

JR 中央線国分寺駅・南口 徒歩5分

※無料/事前申込不要

※会員以外の方も、どうぞおいで下さい

<プログラム予定>

- ・これまでの経過と多摩デポのめざすもの
- ・多摩地域の動き（共同利用保存プロジェクトの報告書から）
- ・カーリルの検索システムに対する精度調査の結果報告
- ・共同研究の成果と検索システムのデモンストレーション

「多摩地域における共同
利用図書館検討プロジ
ェクトチーム報告書」の
検討経過について

中川恭一
(西東京市図書館)

平成20年3月に東京都市長会の助成を受けて調査検討した「多摩地域における共同利用図書館検討調査プロジェクト報告」以後、東京都市町村立図書館長協議会(以下、館長協議会)として解決の道が探られていないことから、2年間をかけて、多摩地域における資料保存体制について今後のあり方を再検討するための現状把握および論点整理を行うことを目的に、館長協議会は平成25年5月に「多摩地域における共同利用図書館検討プロジェクトチーム」(以下、PT)を立ち上げました。

構成メンバーは齋木孝夫(第3ブロック・調布市、座長)、林志津香(第2ブロック・東大和市、副座長)、井上篤之(第1ブロック・多摩市)、中村圭子(第4ブロック・清瀬市)、森本恭子↓小澤敬子(第5ブロック・福生市)とし、これまでの経過を把握している立場から私がオブザーバーとして加わり、これに館長協議会から小池信彦会長(初年度、調布市)が参加して7名で協議を始めました。

昨年9月には、二年半近く続けた調査と協議の結果を報告書にまとめ、10月の館長協議会全体会で報告されました。どんな議論があり、どのような扱いになったか、以下に概略をお伝えします。

「多摩地域の実態調査」

初年度は、多摩地域30市町村図書館の除籍および保存について各自自治体の情報収集のためアンケートを実施しました。

- ① 明文化された除籍廃棄・保存基準あり²⁷(以下、数値は自治体数)
- ② 実用書の除籍ルールあり¹⁶
- ③ 除籍に際して他自治体のデータチェック実施²³(うち、都立図書館¹³、多摩地域公共図書館¹⁶)
- ④ 日常的に開架書架に収納できない¹⁹
- ⑤ 平成20年度以降の書庫等の整備あり¹¹
- ⑥ 都立図書館廃棄資料の所蔵受入れ済み²²
- ⑦ 地域・行政資料の電子化実施⁵、検討⁴

「統計調査」

次年度は、平成20年度か

ら25年度までのデータを収集し、この間の変化を読み取る統計調査をまとめました。

- ① 利用形態の変化/貸出に占める予約件数「5.5%↓19.8%」
 - ② 予約件数25.9%増、個人貸出の停滞傾向
 - ③ 全体で図書費9千万円減
 - ④ 21自治体で全借用数のうち多摩地域間が50%を上回る
 - ⑤ 全体で蔵書数は126万冊増
- などが明らかになりました。

「報告書」作成に向けて

平成27年4月には、PTに(株)カーリル(吉本氏)、多摩デポ(齊藤理事)を招き、バーチャルデポの共同研究の報告とシステムの解説をしていただきました。報告書作成に向けての最終的な議論では、



・都立図書館に望む資料保存の役割を具体的に記載する。

・多摩地域全体で残り2冊の資料を各自自治体の図書館で保存することを第一段階とする。しかし一定の保存年限を超えた場合、必要な資料は都立図書館が保存を引き継ぐ体制を構築することについて、都立図書館へ館長協議会が要望する。

・「実用書」の範囲は、各自治体の除籍基準を尊重すべきであるという意見と何らかの定義を実務者中心の新たなメンバーで検討してはどうかという意見があった。除籍については、各館の廃棄基準を尊重し、各図書館で判断することを原則とする。

・都立図書館から引き継いだ5万冊の資料は、そのほとんどが各図書館で保管されているが、今後は各自自治体の廃棄基準に基づき、保存・廃棄については、各

図書館で判断していくことを確認した。

・多摩デポと(株)カーリルが開発している資料検索システムを使用することによって多摩地域で残り2冊の本を検索する手間が省力化できる見込みである。館長会で、このシステムを使用し、多摩地域全体で資料の分担保存を行う合意形成がされることが望ましい。

また、細部についても1年かけて検討することを考えてもいいのではないかという意見があった。このシステムを使うことについて館長会で合意できるかという意見もあった。

・実務者中心の新たなメンバーが招集されるとしたら、多摩地域全体で廃棄する資料の候補を検討する「保存スペースの創設」を検討していただきたい。具体的には、多摩地域で多数複本があるが、今後の利用が見込

まれない資料について除籍を促し、全体として複本を減らし、保存スペースを確保しようとするものである。文学資料など各図書館で除籍に迷う資料については、保存担当館が明確になることで除籍の判断がしやすくなる効果が期待できる。

・国立国会図書館の蔵書が電子化されるのを待つて除籍するという考え方もある。現在電子化されている資料は1968年までに出版されたものである。

・保存冊数はこれまでの取り決めの再確認として2冊とする。2冊に決めたのは、1冊では所蔵館に責任が集中し負担もあるので2冊としたということである。

「共同利用図書館PTからの提案」

最終的には以下の内容が報告書に盛り込まれました。

1 多摩地域共同保存体制の構築

多摩地域の図書館は希少な図書資料を分担して各図書館で保存する体制を構築する。多摩地域全体で保有する資料が2冊以下のものについては、原則として所蔵館で保存する。

①所蔵状況の確認作業／各自治体の所蔵資料を個別に確認するのは容易ではないが、(株)カーリルと多摩デポが共同で開発しているISBN検索システムを活用できる見込みがある。

②実用書の判断／保存資料とする判断は、各自自治体の図書館における資料の除籍基準を尊重する。

③共同保存体制を維持する新たなセクション／積極的な除籍作業を推進する必要がある。実際の作業では、複本が多い資料に

ついで除籍館と保存館を調整するなど、実務的な役割を担う新たなセクションを設立する必要がある。

2 都立図書館との保存体制

都立図書館と共同して資料を次の世代に引き継ぐことは都内の図書館の重要な役割である。館長協議会として都立図書館と協議しこの課題に取り組む必要がある。

概略以上ですが、報告書の内容のうち、新たなセクションの立ち上げについては、現在、館長協議会で検討中です。(株)カーリルと多摩デポの共同研究のシステムを実際に運用してさらに精度を高め、それにより各自治体の作業を簡略化させ、前向きな保存、共同利用に結び付けていきたいものです。

第24回多摩デポ講座

一橋大学の三資料施設見学会を実施しました

調査・確認のための

超強力資料施設見学記

平山恵三

(多摩デポ副理事長)

まずは、このたび、各施設の方々には、ごていねいなご案内とご説明をいただき、また、貴重な案内書なども賜り、ほんとうにありがとうございました。

また、遠方からのお出かけも加え、ご多用の中での、皆様の見学会へのご参加、ありがとうございます。見学会主催側の一人として、ともに、深くお礼申し上げます。

さて、私見に偏りますが、多摩デポ理事会で、見学会が話題になりましたとき、趣の異なる資料施設はいかがでしょうか、極めて近い

ところにある一橋大学の統計情報センターを、と提案しました。

その後、多摩デポ事務局のみなさんが大学を訪ね、ご相談申し上げるようになりましたら、なんと、今回実現しました、三つの資料施設、すなわち、

1. 一橋大学経済研究所資料室
2. 同研究所一橋大学社会科学統計情報研究センター資料室
3. 一橋大学付属図書館

を一举に見学できることになりました。

なお、2番目のセンターは、私の記憶にありました「統計情報センター」の「拡充改組」によるものでした。

1. の研究所資料室は「研究所の理論的・実証的研究活動を支援するため、日本経済、世界経済の動向に関する実証的資料の系統的・網羅的な収集整備に努め

て」(同研究所2015年度要覧)「これら、」各国の官公庁刊行物を継続して収集するため、国内外の研究機関・政府機関との刊行物交換を積極的に行って」(同要覧)いるということでした。



数は和書（中国語・韓語を含む）153、097冊、洋書256、459冊の計409、556冊、所蔵雑誌数は和雑誌（中国語・韓語を含む）3、453種、洋雑誌2、564種、計6、017種となつて」（同要覽）いるそうです。

なお、この資料室には、研究所の所長も務められた都留重人名誉教授から寄贈された膨大な資料があり（同要覽）、たまたま、企画展示「都留重人の戦争」が行なわれてもいて、特別に、これらについてのお話も頂戴できました。

2. のセンター資料室は、「明治維新以降現在までの、日本経済に関する各種統計・調査資料および研究書を収集・整備して、全国の研究者の共同利用に供して」（同センター案内リーフレット）いるそうです。

当日のお話では、諸資料

は約20万点、ということでした。

このセンターの活動のひとつに、長期経済統計データベースがあり、これについて案内リーフレットには、『長期経済統計』（大川一司・篠原三代平・梅村又次監修、東洋経済新報社、1965—1988）は、近代日本経済の歴史統計を、経済活動の諸分野にわたつて推計、加工などもして体系的に集めた一連の統計書です。（改行）それらは、明治初期以降、国民経済の計算体系に即しつつ、時系列的に経済統計を整備されています。この『長期経済統計』を主要経済統計としてデータベース化したものが、『長期経済統計データベース』です」と記されています。

長期経済統計は、大川さんたちがここの経済研究所であげられた成果でした。

長期経済統計については、のちにもう一度触れさせていただきます。

3. の図書館は、「図書197万冊、雑誌16、800タイトル」を所蔵、「資料を求めて世界中から問い合わせがきます。また、図書館を通して世界から資料を取り寄せることもできます」、「本だけでなく、文献データベースや電子ジャーナルも多数揃えています」、「社会科学系外国雑誌を国内で網羅的に収集するため拠点校となっています」、「社会科学古典資料センターは、世界的に貴重な西洋古典資料を所蔵しています」、「と同図書館の見学案内リーフレットには記されています。圧倒されますね。

実は、



の経済、産業、金融、行政の探査・確認のために、現在も時折私はこちらの図書館に入らせていただいております。

ところで、私の手許には、東洋経済新報社が同社70周年記念出版の一つとして1965年に上梓（刊行開始？—引用者）された『長期経済統計—推計と分析』（全13巻）中の第8巻『物価』（1967年第1刷発行、編者代表大川一司）があります。勤務していた信用金庫で私に与えられた仕事（総合企画をこなすための参考書の一つとして購入していたものでした）。

そして、手許のもう一冊は、東京大学出版会から出た安藤良雄編『近代日本経済史要覧第2版』（第5刷1982年刊）です。とても便利な本でした。本書の初版は1975年ですが、これは、確か職場で購入して

いたと思います。で、この本に、大川さんたちの成果が、わが国の特に戦前の経済諸指標・諸指数に次々と登場していたのが、とても印象的でした。

この要覧のいわば後継は、例えば、『近現代日本経済史要覧「補訂版」』（三和良一・原朗編、東京大学出版会、2010年刊）でしょうが、大川さんたちの成果は、ここでも輝いています。

成果は、私には、金字塔と映ります。統計情報センターの見学はいかがでしょう、と声にしてみたのはこのゆえでした。

（市町村公共）図書館は、読み聞かせも含め、読書のための施設であることは基本でしょうが、（このうち特に中央館は）調査・確認のためのしたたかな施設であることも求められていると私は思っています。

今回の見学では、超強力

な、調査・確認のための資料施設を拝見できたのではないでしょう。

見学会は定員20人までの募集でしたが、参加者は17人でした。ちよっぴり残念だったのは、見学日を月曜日としたのですが、地元公共図書館の職員さん、特にレファレンス担当の方のお出かけを

ほとんど得られなかったことでした。



一橋大学三施設見学記

鬼倉正敏

（日野市立図書館）

キャンパス正面中央の付属図書館（一九三〇年築）、は風情ある建物。国の重要文化財である築地本願寺を設計した伊東忠太によるも

のと帰ってきてから知り、納得した次第。まずは、その右に建つメインの見学先の一橋大学経済研究所資料室（以下「経済研究所」と略）、一橋大学経済研究所付属社会科学統計情報研究センター資料室（以下「統計情報研究センター」と略）に向かう。二手に分かれ交互に見学することに。私は「統計情報研究センター」から見学。

収集資料については、平山氏の見学記にあるので感想を中心に。「統計情報研究センター」は、明治期の「府県勸業年報」「郡是・町村是資料」に興味があり、現多摩地域の巻を捜し切れなかったのが残念。「経済研究所」では、ハングル、中国語、キリル文字の図書が並び、何について書いてあるかは分からないが、その資料群には圧倒された。一九七〇年代後半から設立

が進んだ多摩地域の市町村立図書館も、地域資料をしっかりと収集し続け「経済研究所」のように七〇年もたてば、迫力のあるコレクションが築けるだろう。付属図書館は、両研究所で時間を取ったため、駆け足だったのが残念。入口や大閲覧室は、建築当初の風情をとどめていた。

三施設ともコレクションのデジタル化を進め、ホームページで公開されていて、学外から活用でき便利で、貴重な資料が利用による劣化を防ぎ保存していくことができる。

三施設とも資料保存スペースは課題になっている。「統計情報研究センター」の担当者のお話では、学内の分室を書庫にしているが、三施設との間で資料保存の調整も課題になるだろうとのお話だった。付属図書館では、一部雑誌を小平国際キ

図書館政策セミナー

『公立図書館の運営を考える』

—武雄市図書館と海老名市立図書館の
選書から見えること—

基調講演：「図書館法が求める図書館の運営とは」

手嶋孝典（多摩デポ理事です）

他に、両館の運営と選書について報告 2 本

- ・ 2 月 13 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
- ・ 日本図書館協会 2 階研修室
- ・ 参加費 800 円（資料代）・定員 100 名（申込順）
- ・ 問合せは日本図書館協会企画調査部 欄外参照

キャンパスの小平研究保存図書館に移している。当初、必要な論文だけ取り寄せ運用しようとしたが、冊子全体の利用の要望もあり検討中とのことだった。館種を超えて、資料保存のあり方が課題になっている。

平成 27 年度 東京都多摩
地域公立図書館大会

主催：東京都市町村立
図書館長協議会

テーマ『三多摩の図書館

〜これまで これから〜
未来へ知識をつなぐために』

三多摩の図書館の歴史。それは、「買い物かごを提げ、下駄履きで利用できる市民の図書館」を標榜した日野市の取り組みをはじめとした、市民図書館の歴史でもある。当時は、「市民の求める図書を自由に気軽に貸出すこと」、「児童の読書欲求にこたえ、徹底して児童にサービスすること」、「あらゆる人々に図書を貸出し、図書館を市民の身近に置くために、全域にサービス網をはりめぐらせること」など三つの目標掲げた「市民の図書館」が発行された頃でもある。それから半世紀近くたついま、三多摩の図書館のこれ

までを振り返ることが、未来について考えるために必要なことではないか。

本大会は、このような課題を共有する図書館職員の研鑽・交流の場として、また市民との共同研究の場として開催する。

（以上、開催要綱より）

会期：2月2日（火）、3日

（水）、4日（木）

会場：多摩市立関戸公民館

聖蹟桜ヶ丘駅西口前の

ヴィータ・コミュニネ 8F

大会では多摩デポから座間理事長（2日午前10時「多摩地域における相互貸借のあゆみ」と、齊藤理事（4日午後2時「多摩地域図書館の可能性〜未来を担う若い職員のみなさんへ〜」が講演します。

誰でも当日参加自由です。ぜひぜひ参加しましょう！

★会の現勢

16年1月1日 現在

●会員

（個人会員 94 名）

（団体会員 3 団体）

●賛助会員

（個人 41 名）

（団体 1 団体）

会の活動はみなさまの会費・ご寄付で支えられています。会費の納入がまだの方には振込票を同封しました。お早めに振り込んで下さるよう、よろしくお願ひします。

●年会費

正会員（個人・団体）

五千円

賛助会員 一口 二千円

（個人一口 団体五口以上）